

平成 29 年度厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業（精神障害分野））

「重度かつ慢性の精神障害者に対する包括的支援に関する政策研究 - 薬物療法研究班（H29-精神-一般-004）」分担研究報告書

入院期間に影響する薬物療法因子の文献的検討および英国実態視察調査

分 担 研 究 者 内田 裕之

慶應義塾大学医学部精神・神経科 専任講師

研究要旨

精神科入院期間に関連する薬物療法因子について広く文献的検討を行い、持効性注射剤の不使用、クロザピンの不使用が関連することを明らかにした。また英国の現状も視察し、文献的検討と同様の状態であるとともに、社会福祉サービスの適切な利用が入院期間の短縮につながることを確認した。

A. 研究目的

精神病院における滞在する期間（Length of stay, LOS）に影響を与える要因については文献で議論されているが、そのほとんどは主に社会経済的および人口統計的特徴に焦点を当てている。

本研究の目的は、（1）統合失調症患者の精神科病院における精神科薬物療法と LOS との関連を検討すること、（2）先進的な医療を提供していると考えられている英国の精神医療サービスにおける入院期間に影響している因子を視察により確認すること、である。

B. 研究方法

統合失調症患者の精神科病院における LOS に影響を与える因子を調査した研究について、PubMed を用いて “length of stay” and (schizophrenia or psychosis) という検索語を用いて体系的検索を行った。最初の検索の後、精神科薬物療法と LOS との関連を評価した論文を特定した。英語文献を対象とした。

また、平成 30 年 3 月 12、13 日に英国精神医学研究所（ロンドン）を訪問し、視察

により情報収集した。

（倫理面への配慮）

文献的レビューは、すでに匿名化されたデータの報告のため倫理面への配慮は特に講じなかった。英国精神医学研究所の視察の際は、患者の個人情報収集せず、可能な限り患者との接触はしないなどの十分な配慮を行なった。

C. 結果

（1）体系的文献レビュー

1724 報の論文が同定され、そのうち 1711 報が次の理由で除外された：統合失調症患者における LOS の評価の欠如（795 報）、統合失調症以外の診断（218 報）、福祉制度（381 報）、医療経済（42 報）、外来患者（36 報）、法医学（28 報）、レビュー（197 報）、看護研究（14 報）。残りの 13 論文において、精神科薬物療法と LOS との関連を調査していた。それらのすべては観察研究であり、対照試験はなかった。持効性注射剤（LAI）抗精神病薬およびクロザピンの使用は、短い LOS と関連し、抗精神病薬の多剤併用患者はより長い LOS を示した。

(2) 英国精神医学研究所の視察

英国の現状を視察した結果、上記の文献的検討の結果と同様に、LAIの不使用やクロザピンの導入の遅れが長期入院につながる傾向が判明した。一方で、社会福祉サービスの適切な利用が入院期間の短縮につながることを確認した。

D. 考察

因果関係の検証が難しいが、LAI抗精神病薬、クロザピン、多剤併用療法は、統合失調症患者のLOSに影響を与えると考えられる。一方で、統合失調症患者におけるLOSに対する薬物療法の影響に関するデータは、数および種類において非常に限定的であり、さらなる調査が必要である。

精神医療が先進的であると評価されることの多い英国においても、文献レビューと同様の現状が確認され、薬物療法の適正化が国を問わず、広く必要とされていると考えられる。

E. 結論

因果関係は明らかではないが、統合失調症患者のLOSに影響する薬物療法のパターンが存在し、LOS短縮のためには適切な薬物療法が国を問わず必要である可能性が明らかになった。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

